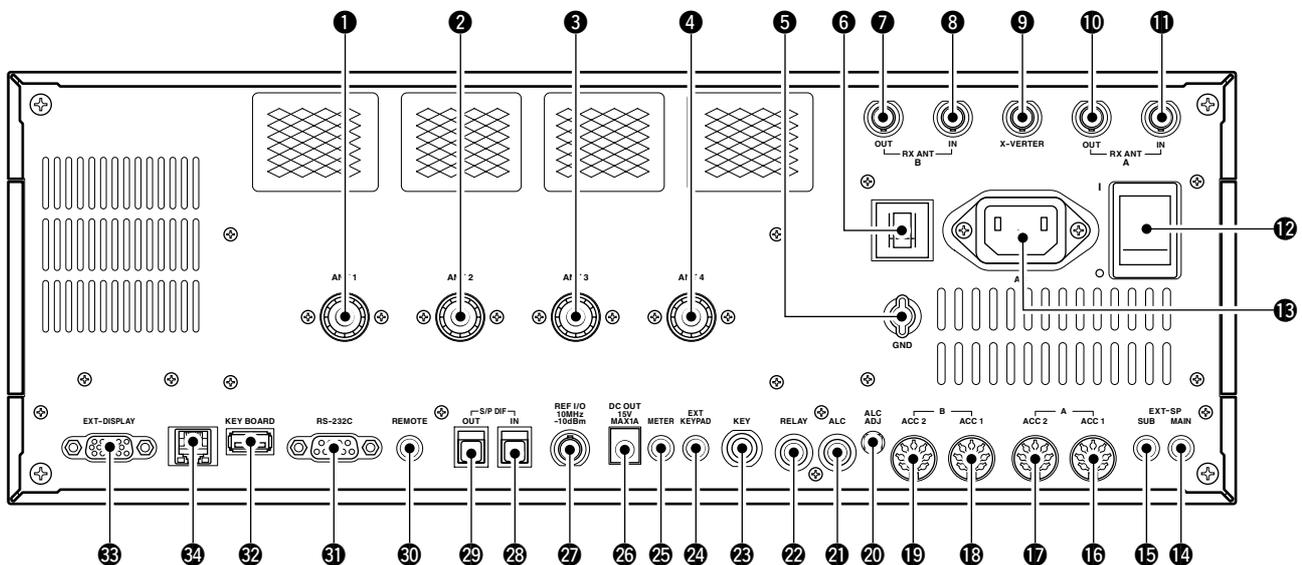


1 各部の名称と機能

■後面パネル



- ① ANT 1(アンテナ 1)コネクタ (P2-5、10-2)
- ② ANT 2(アンテナ 2)コネクタ (P2-5、10-2)
- ③ ANT 3(アンテナ 3)コネクタ (P2-5、10-2)
- ④ ANT 4(アンテナ 4)コネクタ (P2-5、10-2)
50Ω系のアンテナを接続するコネクタです。

- ⑤ GND(アース)端子 (P2-3)
アースを接続する端子です。
感電事故や他の機器から妨害を防ぐため、必ずこの端子をアース線で接地してください。

- ⑥ BREAKER(ブレーカー)スイッチ
機器の短絡、過電流などの異常を検出し、自動的に電源を遮断して回路保護します。
異常があって原因を取り除いたあと、ブレーカーを入れるときは、カチッと音がするまで押し込んでください。

- ⑦ RECEIVE-ANT B OUTジャック [SUB VFO] (P2-4)
外部に専用受信機を接続するジャックです。
ANTコネクタからの受信信号をアンテナ切り替え回路(送受信)を通して取り出されるジャックです。
通常は、RECEIVE-ANT B INジャックにジャンパーケーブルで接続します。

【ご注意】
SPLIT ON時は、MAIN表示側のRECEIV-ANTはB側に、SUB表示側のRECEIV-ANTはA側に切り替わります。

- ⑧ RECEIVE-ANT B INジャック [SUB VFO] (P2-4)
受信専用アンテナやプリアンプなどを接続するジャックです。
ANTコネクタからの信号を受信しないで、このジャックから直接受信部へ入力します。
通常は、RECEIVE-ANT B OUTジャックにジャンパーケーブルで接続します。

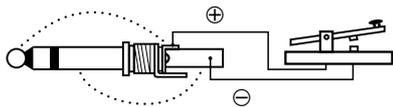
- ⑨ X-VERTER(トランスバーター)ジャック (P2-6)
トランスバーターを接続するジャックです。
ACCソケット(2)の6番ピンに、DC 8Vを入力すると、送受信が有効になります。

- ⑩ RECEIVE-ANT A OUTジャック [MAIN VFO] (P2-4)
- ⑪ RECEIVE-ANT A INジャック [MAIN VFO] (P2-4)
動作については、前記⑦、⑧を参照してください。

- ⑫ 主電源スイッチ (P3-3)
本機の電源部をON/OFFするスイッチです。
主電源スイッチがOFFのときは、前面パネルの電源スイッチは動作しません。

- ⑬ AC(交流電源)ソケット (P2-5)
AC電源の入力ソケットです。
付属のAC電源ケーブルを使用して、ACコンセントに接続します。
使用可能な電圧範囲は、AC 85V~125V(付属のAC電源ケーブルをご使用の場合)です。
 - AC 200Vを使用の場合は、AC 200V用のAC電源ケーブルを別途用意してください。

- ⑭ EXT-SP(外部スピーカー)ジャック [MAIN VFO] (P2-6)
 ⑮ EXT-SP(外部スピーカー)ジャック [SUB VFO] (P2-6)
 MAIN VFO/SUB VFO用の外部スピーカーを接続するジャックです。
 インピーダンスが4~8Ωの外部スピーカーを接続します。
- ⑯ ACC A (1)(アクセサリ)ソケット (P1-14)
 ⑰ ACC A (2)(アクセサリ)ソケット (P1-14)
 ⑱ ACC B (1)(アクセサリ)ソケット (P1-14)
 ⑲ ACC B (2)(アクセサリ)ソケット (P1-14)
 外部機器を制御するための、制御用入出力ソケットです。
 TNCやパーソナルコンピューターなどを接続します。
- ⑳ ALC(自動レベル制御)ADJトリマー
 ALCレベルを調整するトリマーです。
 ALC電圧が0~-4V以外のリニアアンプを使用のときは、トリマーを回してリニアアンプの出力が定格パワーになるように調整します。
- ㉑ ALC(自動レベル制御)ジャック (P2-8)
 リニアアンプ接続時に、リニアアンプ側から出力されるALC電圧を入力するジャックです。
 なお、ALC電圧は0~-4V程度になるように設定してください。
- ㉒ RELAY(リレー)ジャック (P2-8)
 リニアアンプの送受信をコントロールするジャックです。
 リニアアンプを接続したとき、内部の機械式リレーまたはMOS FET(半導体)を駆動して、リニアアンプの送受信を制御します。
- ㉓ KEY(電鍵)ジャック (P2-5)
 電鍵を接続するジャックです。
 CW運用時の電鍵や外部エレクトロニックキーヤーを接続します。
- ㉔ EXT KEYPAD(外部キーパッド)ジャック (P2-7)
 CWメモリーキーヤー、ボイスメモリーの送受信を制御するジャックです。
 キーヤー画面やボイスメモリー画面を表示しなくても、メモリーキーヤー、ボイスメモリーの送受信を行うことができます。
- ㉕ METER(メーター)ジャック (P2-7)
 外部メーターを接続するジャックです。
- ㉖ DC OUT(15.0V)ジャック
 外部出力電圧(無負荷時)のジャックです。
 出力電圧：DC 約14.0V
 出力電流：最大1.0A
- ㉗ REF I/O(基準信号)ジャック
 10MHzの基準信号を入力/出力するコネクタです。
- ㉘ S/P DIF(光端子) IN(変調入力)ジャック
 ㉙ S/P DIF(光端子) OUT(AF出力)ジャック
 パーソナルコンピューターのサウンドボードなどに接続します。
 ● S/P DIF OUT(出力)について
 サンプルング：48kHz/16bit (ステレオ出力)
 L側：MAIN出力
 R側：SUB出力
- ㉚ REMOTE(リモート)ジャック (P2-6)
 別売品のCI-Vレベルコンバーター(CT-17)を介してパーソナルコンピューターを接続するコネクタです。
 CI-V(シーアイ・ファイブ)方式で、パーソナルコンピューターから本機を外部コントロールできます。
- ㉛ RS-232Cコネクタ (P2-7)
 RS-232Cケーブルを接続するコネクタです。
- ㉜ KEY BOARDコネクタ (P2-7)
 USBタイプのキーボードを接続するコネクタです。
- ㉝ EXT DISPLAYコネクタ (P2-7)
 本機の画面を外部モニターで見るときに接続します。
- ㉞ ETHERNETコネクタ (P14-12)
 ファームアップするときなどに、パソコンを接続するコネクタです。



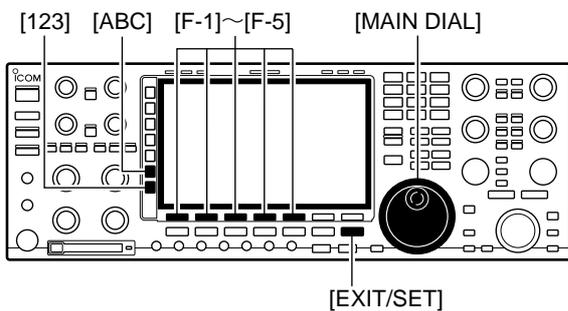
- ㉞ EXT KEYPAD(外部キーパッド)ジャック (P2-7)
 CWメモリーキーヤー、ボイスメモリーの送受信を制御するジャックです。
 キーヤー画面やボイスメモリー画面を表示しなくても、メモリーキーヤー、ボイスメモリーの送受信を行うことができます。

◇ メモリーキーヤーの編集(EDIT)について

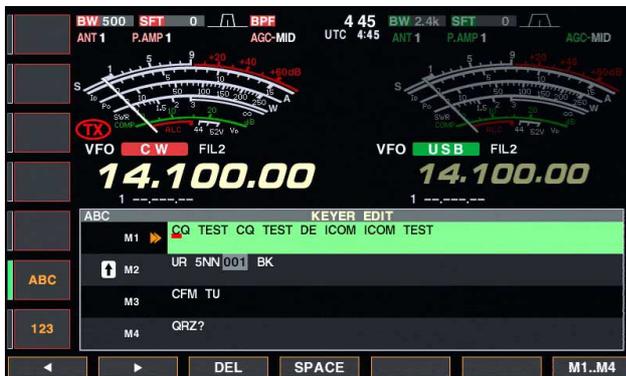
● 登録のしかた

《操作例》

“M3”に“QSL TU DE JA3YUA TEST”と入力する場合



● MEMORY EDIT画面



● 操作例を入力したときの表示



登録済み定型文

CH	定型文
M1	CQ TEST CQ TEST DE ICOM ICOM TEST
M2	UR 5NN ⁰⁰¹ BK
M3	CFM TU
M4	QRZ?

コンテストなどで使用する定型文を登録するメモリーキーヤーの編集(EDIT)を設定します。

メモリーキーヤーには、シリアルコンテストナンバー、自動カウントアップ機能、コンテストナンバー省略符号化(0=OまたはT、1=A、9=Nなど)の機能があります。

メモリーキーヤーは4チャンネルあり、各チャンネルに最大70文字まで登録できます。

- ① [F-3](KEYER)を押し、「MEMORY KEYER」画面を表示します。
- ② [EXIT/SET]を押し、「MEMORY KEYER MENU」画面を表示します。
- ③ [F-2](EDIT)を押し、「KEYER EDIT」画面を表示します。
- ④ [F-7](M1..M4)を押し、登録したいメモリーキーヤーのチャンネル“M3”を選びます。
 - ・ [F-5]を押すごとに、チャンネルが“M1”→“M2”→“M3”→“M4”→“M1”と切り替わります。
 - ・ 英文字を入力するときは、機能選択の[ABC]を押します。
 - ・ 数字を入力するときは、機能選択の[123]を押します。押すごとに数字[123]と記号[Symbol]が切り替わります。
 - ・ 本機にUSBキーボードを接続しているときは、直接入力できます。
- ⑤ [MAIN DIAL]を回して“Q”を選びます。
 - ・ 入力できる文字は、下記のアルファベット26文字、記号の6文字と数字(0~9)が入力できます。なお、数字(0~9)と記号の“.”はテンキーからも入力できます。
 - ・ “^”記号は、“AR”のようなときに使用する連続記号“—”の役目をします。“AR”の前に入れます。
- ⑥ [F-1](◀)または[F-2](▶)を押してカーソルを移し、文字を入れる桁を選びます。
 - ・ [F-4](SPACE)を押すと、スペース(空白)が入ります。また、[F-3](DEL)を押すと、文字が消去できます。
- ⑦ 上記⑤~⑥を繰り返し、70文字以内で定型文を入れます。
- ⑧ 設定後、[EXIT/SET]を押すと、「KEYER EDIT」画面が終了し、前の表示に戻ります。

ABC	A→B→C→D→E→F→G→H→I→J→K→L→M→N →O→P→Q→R→S→T→U→V→W→X→Y→Z
123	1→2→3→4→5→6→7→8→9→0
Symbol	/→?→^→.→,→@→*

※ 上記*(アスタリスク)は、M1~M4のうち1カ所だけの挿入に限られています。

* (アスタリスク)の設定により、カウンター値(001)が設定されます。

なお、工場出荷時はM2に使用しているため表示(選択)できません。

12 セットモード

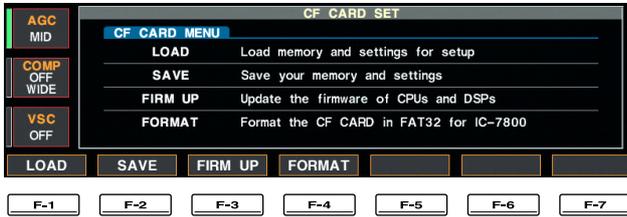
◇ OTHERS SET画面の設定項目について(つづき)

セット項目と初期設定値	設定内容
37.外部キーパッドのキーヤー設定 External Keypad (KEYER) OFF	EXT KEYPADジャック(後面パネル)に制御回路を付加することにより、機器外部からキーヤーメモリーの送出手を制御します。 <ul style="list-style-type: none"> ● ON : 外部キーパッドで送信用メモリー(T1~T4)を送出する(CWモード) ● OFF : 外部キーパッドの送出手機能を無効にする
38.CI-Vのボーレート設定 CI-V Baud Rate Auto	CI-Vシステムを利用して、本機を外部コントロールするときのボーレートを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 300/1200/4800/9600/19200/Auto(bps)の中から選択する Autoにすると、接続した機器からのデータのボーレートに自動設定します。
39.CI-Vのアドレス設定 CI-V Address 6Ah	CI-Vシステムを利用して、本機を外部コントロールするときのアドレスを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 01h~6Ah~7Fhの中から選択する 初期設定値の6Ahは本機のアドレスです。
40.CI-Vのトランシーブ設定 CI-V Transceive ON	CI-Vシステムを利用して、トランシーブのON/OFFを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● OFF : トランシーブ動作をしない ● ON : トランシーブ動作にする
41.RS-232Cの設定 RS-232C Function CI-V	RS-232Cから出力する信号の切り替えを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● CI-V : CI-Vシステムで出力する ● Decode : Decode(デコード)した内容をアスキーコードで出力する
42.デコードのボーレート設定 Decode Baud Rate 9600	デコード選択時のボーレートを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 300/1200/4800/9600/19200(bps)の中から選択する
43.キーボードの設定 Keyboard Type Japanese	本機に接続するキーボードの種類を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● Japanese / English / United Kingdom / French / French (Canadian) / German / Portuguese / Portuguese (Brazilian) / Spanish / Spanish (Latin American) / Italianの中から選択する
44.キーボードの繰り返し遅延時間設定 Keyboard Repeat Delay 250ms	キーを押してから、繰り返し文字入力が始まるまでの間隔(遅延時間)を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 100~1000(50msステップ)の中から選択する
45.キーボードの繰り返し速度設定 Keyboard Repeat Rate 10.9cps	キーボード接続時の繰り返し速度を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 2.0~30.0(0.1cpsステップ)の中から選択する
46.IPアドレスの設定 IP Address (Valid after Reboot) 192.168. 0. 1	本製品のIPアドレスを設定します。 ※ [F-3](◀▶)で項目を選び、[MAIN DIAL]で設定する ※なお、設定を変更した場合は、本機を再起動することにより設定が有効になります。
47.サブネットマスク設定 Subnet Mask (Valid after Reboot) 255.255.255.0 (24bit)	本製品のサブネットマスクを設定します。 ※ [MAIN DIAL]で設定する ※なお、設定を変更した場合は、本機を再起動することにより設定が有効になります。

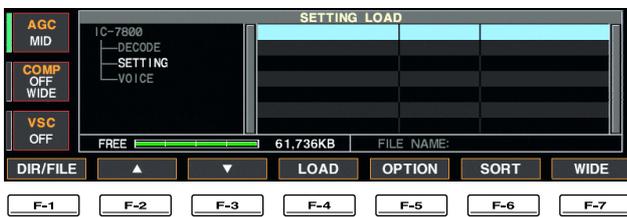
◇ CF CARD SET画面の設定項目について

「CF CARD SET」画面から、さらに詳細な以下の設定が選択できます。

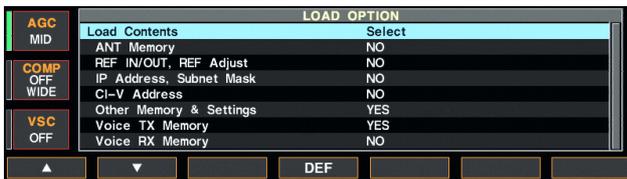
● CF CARD SET 画面



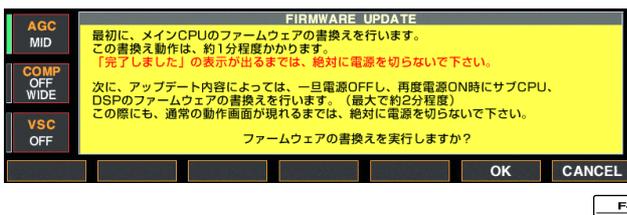
● SETTING LOAD 画面 (P12-19)



● LOAD OPTION 画面 (P12-16)



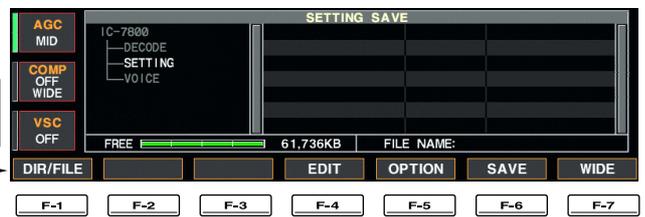
● FIRMWARE UPDATE 画面 (P14-10)



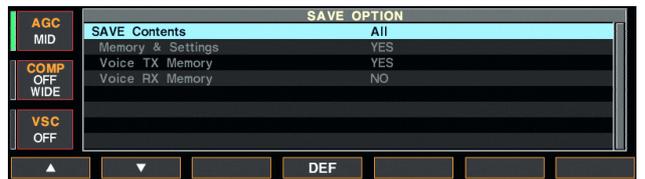
● FORMAT 画面 (P12-21)



● SETTING SAVE 画面 (P12-18)

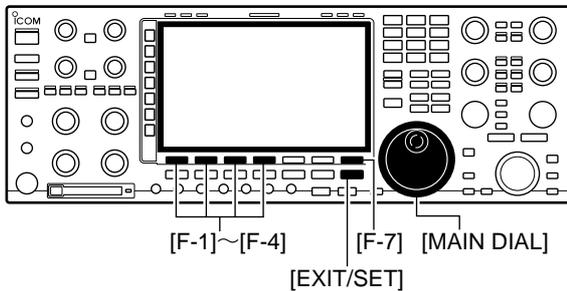


● SAVE OPTION 画面 (P12-16)



13 調整と表示の設定について

■スクリーンセーバーの設定について



●スクリーンセーバー画面(Twist)表示例



スクリーンセーバー機能は、一定時間、本機を操作しない状態が続くと、ディスプレイ(LCD)を焼き付きから保護するために動作します。

- ① セットモードの「DISPLAY SET」画面で、[F-1](▲)または[F-2](▼)を押し、Screen Saver Function項目を選択します。
 - ② [MAIN DIAL]を回して、スクリーンセーバー機能が動作する時間を設定します。
 - OFF(動作しない)、15min.、30min.、60min.の中から選択します。(初期設定値：60min.)
 - ③ [F-2](▼)を押し、Screen Saver Type項目を選択します。
 - ④ [MAIN DIAL]を回して、スクリーンセーバー画面の種類を設定します。
 - Bound、Rotation、Twistの中から選択します。(初期設定値：Bound)
- ※[F-5](PREVIEW)を押すと、押しているあいだスクリーンセーバー画面を表示します。
- ⑤ 設定後、[EXIT/SET]を押すと「SET MODE」画面に戻ります。

■ ファームウェアの書換えについて

CFカードを使用して、またはパソコンと本機をEthernet(イーサネット)ケーブルで接続して、ファームアップできます。

ファームアップすることにより、本機に新たな機能を追加したり、すでに搭載されている機能の性能を向上することができます。

ファームアップのデータはアイコムホームページ(<http://www.icom.co.jp/>)より、ダウンロードすることができます。

ご使用のパソコンが、インターネットに接続できる環境になっている必要があります。

◇ ファームアップの方法について

ファームアップデータをCFカードへ書き込むには、市販のメモリーカードリーダーが必要です。

また、パソコンからファームアップする場合、お使いになるパソコンにEthernet(LAN)ポートが必要です。ご使用のパソコンに適合した市販のPCIバス用LANアダプター(10BASE-T/100BASE-TX対応)、またはカードスロット用のLANカード(10BASE-T/100BASE-TX対応)をご利用ください。

メモリーカードリーダー、およびLANアダプター/LANカードについては、家電販売店、パソコンショップなどにおたずねください。

ダウンロードしたファームアップデータを、いったんCFカードに書き込んでからファームアップする方法、またはパソコンのLANポートとIC-7800の[ETHERNET]コネクタをEthernet(イーサネット)ケーブルで接続してファームアップする方法があります。

お使いになっているパソコンの接続環境に応じて、ファームアップ方法をお選びください。

- インターネットに接続できるパソコンが1台だけある
→■ CFカードによるファームアップのしかた(☞P14-10)を参照してください。
- インターネットに接続できるパソコンが2台以上あり、そのパソコンがブロードバンドルーター、またはHUBを使ってLAN(Local Area Network)を構築している
→■ パソコンからファームアップするときは(☞P14-12)、または■ CFカードによるファームアップのしかた(☞P14-10)を参照してください。

なお、パソコンが無い場合のファームアップに関しましては、弊社各営業所サービス係、またはiUSE(アイ・ユーズ)にご相談ください。

iUSE(アイ・ユーズ)連絡先

電話 : 0120-03-3423(平日9:00~12:00、13:00~17:00)

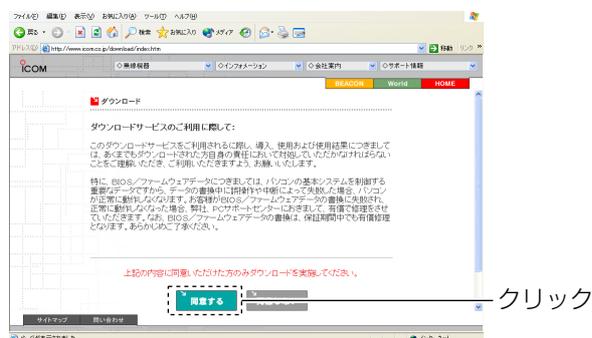
FAX : 06-6793-3336(24時間受付)

郵送 : 〒547-0004 大阪市平野区加美鞍作1-6-19
アイコム株式会社 iUSE係

◇ ファームウェアの入手について



カーソルを「サポート情報」にあわせると、表示される。



アイコムホームページ(<http://www.icom.co.jp/>)にアクセスし、ファームアップデータをダウンロードします。

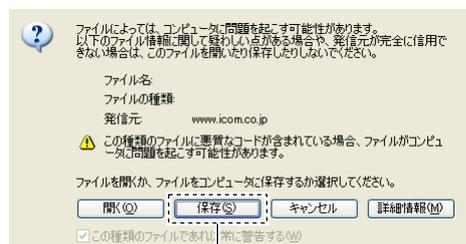
① アイコムホームページを開き、「サポート情報」から[ダウンロード]をクリックします。

② 「ダウンロードサービスのご利用に際して」の説明文をお読みいただき、内容をご理解いただいたあとに[同意する]をクリックします。

③ ▼無線機からIC-7800をクリックします。

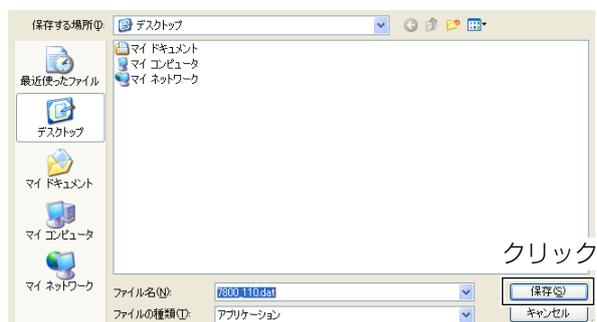
④ IC-7800のファームアップデータのリンクをクリックします。

⑤ 表示される画面に、お客さまのお名前、コールサイン、本機の製造番号("010"から始まる全7桁)などの必要事項を入力して[送信]ボタンをクリックします。



クリック

⑥ ファイルのダウンロード画面を表示しますので、[保存(S)]ボタンをクリックします。



⑦ 名前を付けて保存画面を表示しますので、保存する場所を指定してから、[保存(S)]ボタンをクリックすると、ファームアップデータのダウンロードを開始します。

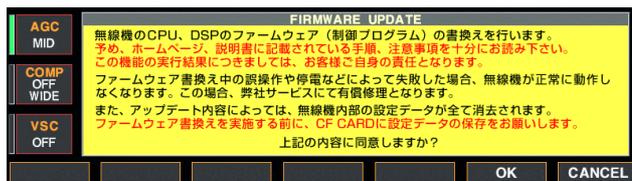
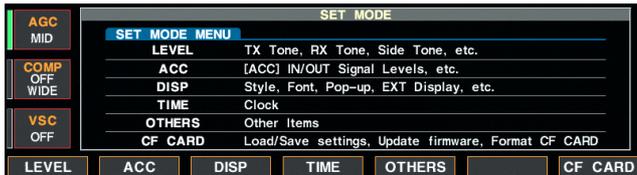
※圧縮ファイル(自己解凍形式)となっていますので、ダウンロードしたファイルを解凍してお使いください。(ファイルをダブルクリックすると、自動的に解凍します。)

■ CFカードによるファームアップのしかた

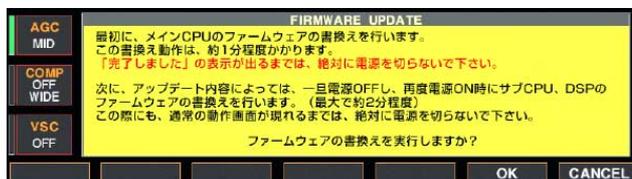
⚠ 警告

ファームアップの実行中は、絶対にIC-7800の電源を切らないでください。

なお、この機能(ファームアップ)の実行結果については、お客様ご自身の責任となります。



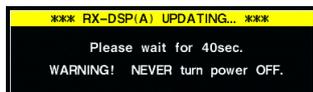
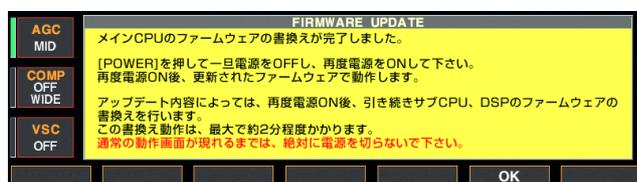
ファームウェアのファイルを選択



- ① ファームアップデータ(例：7800_110.DAT)を、CFカードの"IC-7800"フォルダにコピーします。
重要！必ずIC-7800でフォーマットしたCFカードにコピーしてください。
- ② ファームアップデータを書き込んだ、CFカードをCF CARDスロットに差し込みます。
- ③ [EXIT/SET]を長く(約1秒)押し、「SET MODE」画面を表示します。
または、初期画面で[F-7](SET)を押します。
- ④ [F-7](CF CARD)を押し、「CF CARD SET」画面を表示します。
- ⑤ [F-3](FIRM UP)を長く(約1秒)押し、ファームアップ同意「FIRMWARE UPDATE」画面を表示します。
記載内容の注意事項をよくお読みください。
- ⑥ 記載内容をよくお読みいただき、同意するときは[F-6](OK)を押して、ファイル選択画面を表示します。
ファームアップを中止するときは、[F-7](CANCEL)を押します。
- ⑦ [F-2](▲)または[F-3](▼)を押し、IC-7800のフォルダでファームウェア(例：7800_110.DAT)を選択します。
- ⑧ [F-4](FIRM UP)を押し、ファームアップ実行の最終画面を表示します。
記載内容の注意事項をよくお読みください。
- ⑨ 記載内容をよくお読みいただき、実行するときは[F-6](OK)を長く(約1秒)押し、ファームアップを開始します。
ファームアップを中止するときは、[F-7](CANCEL)を押します。

(☞次頁につづく)

■ CFカードによるファームアップのしかた(つづき)



- ⑩ CFカードより、ファームアップのデータを読み込み、メインCPUへファームアップデータを書き込みます。読み込み、書き込みの状態をダイアログボックスで表示します。

ご注意

左の画面を表示しているときは、絶対に電源を切らないでください。

- ⑪ 「メインCPUのファームウェアの書換えが完了しました。」画面が表示されます。

- ⑫ IC-7800の[POWER]を長く(約1秒)押し、いったん電源を切ります。

- ⑬ 再度[POWER]を短く押し、電源を入れます。

このとき、ファームアップデータの内容によって、サブCPU、DSPのファームウェアも書き替えます。

※ファームを書き替えているあいだは、左のダイアログのいずれか、またはすべてを順に表示します。

最大で約2分程度かかります。

ご注意

通常の画面が表示されるまでは、絶対に電源を切らないでください。

- ⑭ 通常の画面を表示すると、ファームアップは完了です。

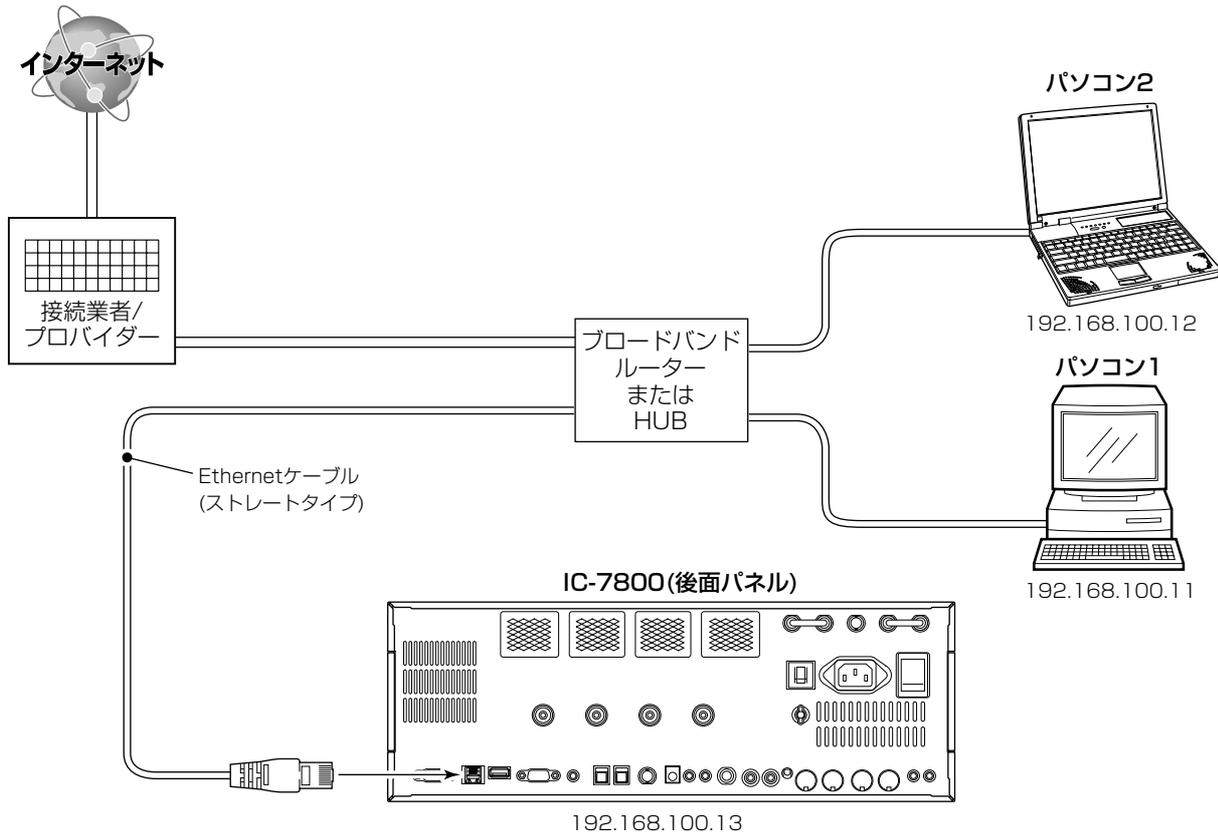
■ パソコンからファームアップするときは

◇ IC-7800とパソコンの接続

パソコンからファームアップする場合は、下図を参考に Ethernet(LAN)ケーブル(ストレートタイプ)を使って本機をLANに接続してください。

また、◇ IPアドレスとサブネットマスクの設定(※P14-13)を参照して、本機のIPアドレス、およびサブネットマスクを設定してください。

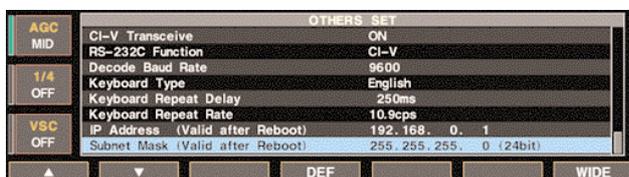
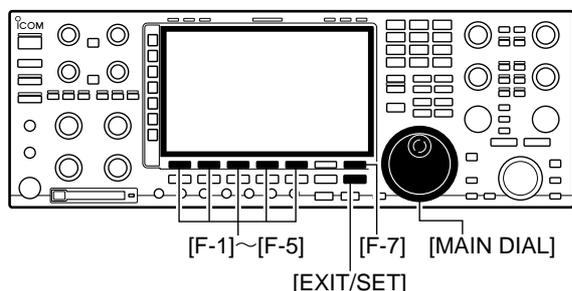
● 接続例



● IPアドレス設定例

	パソコン1	パソコン2	IC-7800
IPアドレス	192.168.100.11	192.168.100.12	192.168.100.13
サブネットマスク	255.255.255.0	255.255.255.0	255.255.255.0

◇ IPアドレスとサブネットマスクの設定



CFカードからファームアップするときは、この設定は必要ありません。

重要

本機に設定するIPアドレスは、固定IPアドレスです。LANに接続するときは、他のパソコンやネットワーク機器とIPアドレスが重複しないように、事前に設定するIPアドレスを確認してください。IPアドレスを重複して設定すると、LANでのデータ通信に障害をあたえます。

- ① [EXIT/SET]を長く(約1秒)押し、「SET MODE」画面を表示します。
または、初期画面で[F-7](SET)を押します。
- ② [F-5](OTHERS)を押して、「OTHERS SET」画面を表示します。
- ③ [F-1](▲)または[F-2](▼)を押してIP Address項目を選択します。
- ④ [F-3](◀ ▶)を押し、カーソルを移して設定するアドレス部を選択します。
- ⑤ [MAIN DIAL]を回して、アドレスを設定します。
- ⑥ 上記④、⑤を繰り返して、指定のIPアドレスを設定します。
※IPアドレスの初期設定値は192.168.0.1です。
- ⑦ [F-2](▼)を押してSubnet Mask項目を選択します。
- ⑧ [MAIN DIAL]を回して、指定のサブネットマスクを設定します。
※サブネットマスクの初期設定値は255.255.255.0です。
- ⑨ 本機を再起動すると、設定が有効になります。

設定変更後は、必ず電源を入れ直してください。電源を入れ直さないと、設定したIPアドレス、サブネットマスクで作動しないため、本機をネットワーク上で認識できません。

◇ ファームアップ操作

⚠ 警告

ファームアップの実行中は、絶対にIC-7800の電源を切らないでください。

なお、この機能(ファームアップ)の実行結果については、お客様ご自身の責任となります。



重要：Firm Utilityは以下のOSに対応しています。

Microsoft® Windows® 98/SE

Microsoft® Windows® ME

Microsoft® Windows® 2000

Microsoft® Windows® XP

① ファームアップにお使いになるパソコンを接続しているブロードバンドルーター、またはHUBに、イーサネット(Ethernet)ケーブル(ストレートタイプ)でIC-7800のEthernetコネクタを接続します。

② アイコムホームページからダウンロードしたFirm Utilityを起動します。

- ダウンロードした[7800FirmUtl_v100.exe]ファイルをダブルクリックします。
- 解凍した[7800FirmUtl.exe]をダブルクリックします。
- Firm Utility起動時の同意画面を表示します。
- 記載内容の注意事項をよくお読みください。

③ 記載内容をよくお読みいただき、同意するときは[はい]をクリックします。

④ ダウンロードしたファームウェア(拡張子：dat)のファイル名を、保存したルートおよびフォルダ名を含めてテキストボックスに直接入力するか、[参照]をクリックして選択します。

⑤ 「IC-7800のIPアドレス」のテキストボックスに本製品のIPアドレス(初期設定値：192.168.0.1)を入力してから、[実行]をクリックします。

● **ダイアログボックスの表示**

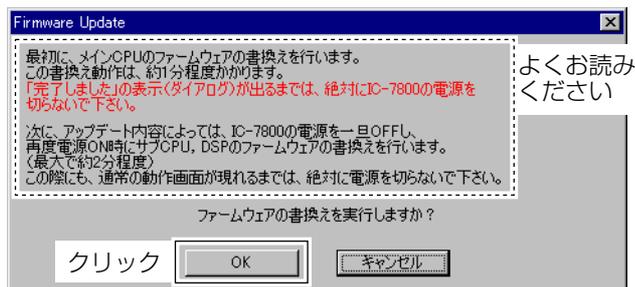
IC-7800の電源を入れてください。

通常の動作画面が現れたら、ファームウェアデータファイル、IC-7800のIPアドレスを指定して、[実行]ボタンをクリックしてください。



(⇒次頁につづく)

◇ ファームアップ操作(つづき)



- ⑥ ファームアップ実行の最終画面を表示します。
記載内容の注意事項をよくお読みください。
[OK]をクリックします。

ご注意
IC-7800の電源は絶対に切らないでください。



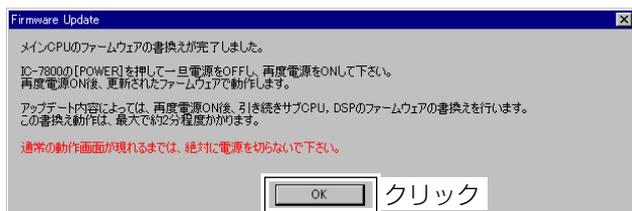
- ⑦ ファームアップデータの転送状態をダイアログボックスに表示します。

- **ダイアログボックスの表示**
IC-7800に接続中...
IC-7800に接続しました。
ファームウェアを転送しています。



- ⑧ 書き込み中の状態をダイアログボックスに表示します。

- **ダイアログボックスの表示**
ファームウェアを転送しています。
ファームウェアの転送が完了しました。
ファームウェアの更新を開始します。
しばらくお待ちください。
IC-7800の電源は絶対に切らないでください。
ファームウェアの更新が完了しました。



- ⑨ 「メインCPUのファームウェアの書換えが完了しました。」画面が表示されます。
[OK]をクリックします。

- ⑩ IC-7800の[POWER]を長く(約1秒)押し、いったん電源を切ります。

(※次頁につづく)

14 保守について

◇ ファームアップ操作(つづき)



- ⑪ 再度[POWER]を短く押し、電源を入れます。
このとき、ファームアップデータの内容によって、サブCPU、DSPのファームウェアも書き替えます。
※ファームを書き替えているあいだは、左のダイアログのいずれか、またはすべてを順に表示します。
最大で約2分程度かかります。
ご注意
通常の画面が表示されるまでは、絶対に電源を切らないでください。
※ファームウェアを終了するときは、画面右上の  (クローズ) ボタンをクリックしてください。
- ⑫ 通常の画面を表示すると、ファームアップは完了です。

◇ コマンド一覧表(つづき)

コマンド	サブ	動作
1A (注1)	05	0062 クロック2のオフセット時間設定 ※240001(-24:00)~240000(+24:00)
		0063 クロック2のネーム設定※最大3文字(※P15-7参照)
		0064 マーカー信号の出力設定※0=OFF、1=ON
		0065 ビープ音の設定※0=OFF、1=ON
		0066 バンドエッジビープ音の設定※0=OFF、1=ON
		0067 ビープ周波数(MAIN)の設定※50=500Hz~200=2000Hz
		0068 ビープ周波数(SUB)の設定※50=500Hz~200=2000Hz
		0069 クイックデュアルワッチの設定※0=OFF、1=ON
		0070 クイックスプリットの設定※0=OFF、1=ON
		0071 FMスプリット運用のオフセット周波数設定(HF帯) (※P15-7参照)
		0072 FMスプリット運用のオフセット周波数設定(50MHz帯) (※P15-7参照)
		0073 スプリットロック機能の設定※0=OFF、1=ON
		0074 アンテナチューナーのオートチューンスタート設定 ※0=OFF、1=ON
		0075 アンテナチューナーのPTTスタート機能設定 ※0=OFF、1=ON
		0076 トランスバーター機能の設定※0=Auto、1=ON
		0077 トランスバーター用オフセット周波数の設定 (※P15-7参照)
		0078 RTTYマーク周波数の設定 ※0=1275Hz、1=1615Hz、2=2125Hz
		0079 RTTYシフト幅の設定※0=170Hz、1=200Hz、2=425Hz
		0080 RTTYキーイング極性の設定※0=Normal、1=Reverse
		0081 PSKトーン周波数の設定 ※0=1000Hz、1=1500Hz、2=2000Hz
		0082 音声合成の発声言語設定※0=English、1=Japanese
		0083 音声合成の発声スピード設定※0=Low、1=High
		0084 Sメーターレベルの発声設定※0=OFF、1=ON
		0085 運用モードの発声設定※0=OFF、1=ON
		0086 メモパッドチャンネル数の設定※0=5ch、1=10ch
		0087 メインダイヤルの設定※0=MAIN、1=MAIN+SUB
		0088 メインダイヤルのオートTS機能設定 ※0=OFF、1=Low、2=High
		0089 サブダイヤルのオートTS機能設定 ※0=OFF、1=Low、2=High
		0090 マイクロホンUp/Down動作スピードの設定 ※0=Low、1=High
		0091 クイックRIT/ΔTXクリアーの設定※0=OFF、1=ON
		0092 SSBモードのノッチ設定 ※0=Auto、1=Manual、2=Auto/Manual
		0093 AMモードのノッチ設定 ※0=Auto、1=Manual、2=Auto/Manual
		0094 DIGI-SELツマミの動作設定※0=DIGI-SEL、1=APF
		0095 フィルター画面選択時のPBT操作表示設定 ※0=Fix、1=Auto
		0096 SSB/CW周波数シフト機能の設定※0=OFF、1=ON
		0097 CWモードのキャリアポイント設定※0=LSB、1=USB
		0098 マイクコネクタへのAF出力設定 ※0=MAIN+SUB、1=SUB
		0099 外部キーパッドのボイス設定※0=OFF、1=ON
		0100 外部キーパッドのキーヤー設定※0=OFF、1=ON
		0101 CI-Vトランシーブ機能の設定※0=OFF、1=ON
		0102 RS-232Cコネクタの設定※0=CI-V、1=Decode
		0103 CI-Vのボーレート設定 ※0=300、1=1200、2=4800、3=9600、4=19200

コマンド	サブ	動作
1A (注1)	05	0104 キーボードの設定 ※00=English、01=Japanese、02=United Kingdom、 03=French、04=French (Canadian)、05=German、 06=Portuguese、07=Portuguese (Brazilian)、 08=Spanish、09=Spanish (Latin American)、 10=Italian
		0105 キーボードの繰り返し遅延設定 ※10=100ms~100=1000ms(50msステップ)
		0106 キーボードの繰り返し速度設定 ※0=2.0cps~31=30.0cps
		0107 IPアドレスの設定 ※0000000000000000(0.0.0.0)~ 0255025502550255(255.255.255.255)
		0108 サブネットマスクの設定 ※0=0.0.0.0~30=255.255.255.252
		0109 送信信号のスコープ表示設定※0=OFF、1=ON
		0110 スコープのピーク波形ホールド機能設定 ※0=OFF、1=ON
		0111 センタータイプスコープの中心周波数設定 ※0=Filter Center、1=Carrier Point、 2=Carrier Point (Abs. Freq.)
		0112 受信信号波形のカラー設定(※P15-7参照)
		0113 ピークホールド波形のカラー設定(※P15-7参照)
		0114 スコープのスイープスピード設定(±2.5k時) ※0=SLOW、1=MID、2=FAST
		0115 スコープのスイープスピード設定(±5k時) ※0=SLOW、1=MID、2=FAST
		0116 スコープのスイープスピード設定(±10k時) ※0=SLOW、1=MID、2=FAST
		0117 スコープのスイープスピード設定(±25k時) ※0=SLOW、1=MID、2=FAST
		0118 スコープのスイープスピード設定(±50k時) ※0=SLOW、1=MID、2=FAST
		0119 スコープのスイープスピード設定(±100k時) ※0=SLOW、1=MID、2=FAST
		0120 スコープのスイープスピード設定(±250k時) ※0=SLOW、1=MID、2=FAST
		0121 バンドスコープエッジ周波数の設定(0.03~1.60) (※P15-7参照)
		0122 バンドスコープエッジ周波数の設定(1.60~2.00) (※P15-7参照)
		0123 バンドスコープエッジ周波数の設定(2.00~6.00) (※P15-7参照)
		0124 バンドスコープエッジ周波数の設定(6.00~8.00) (※P15-7参照)
		0125 バンドスコープエッジ周波数の設定(8.00~11.00) (※P15-7参照)
		0126 バンドスコープエッジ周波数の設定(11.00~15.00) (※P15-7参照)
		0127 バンドスコープエッジ周波数の設定(15.00~20.00) (※P15-7参照)
		0128 バンドスコープエッジ周波数の設定(20.00~22.00) (※P15-7参照)
		0129 バンドスコープエッジ周波数の設定(22.00~26.00) (※P15-7参照)
		0130 バンドスコープエッジ周波数の設定(26.00~30.00) (※P15-7参照)
		0131 バンドスコープエッジ周波数の設定(30.00~45.00) (※P15-7参照)

15 リモート機能

◇ コマンド一覧表(つづき)

コマンド	サブ	動作
1A (注1)	05	0132 バンドスコープエッジ周波数の設定(45.00~60.00) (※P15-7参照)
		0133 ボイスメモリー送出時の自動モニター機能設定 ※0=OFF、1=ON
		0134 [PLAY]を短く押したときの再生時間設定 ※3=3s~10=10s
		0135 [REC]を短く押したときの録音時間設定 ※5=5s~15=15s
		0136 001数字による略語化の設定 ※0=Normal、1=190→ANO、2=190→ANT、 3=90→NO、4=90→NT
		0137 001トリガチャンネルの設定※1=M1~4=M4
		0138 001カウンター値の設定※1~9999
		0139 メモリーキーヤー送出時のリピート時間設定 ※1=1sec.~60=60sec.
		0140 ドットダッシュのウエイト長の設定 ※28=1:1.2.8~45=1:1.4.5
		0141 送信電波が定格出力になるまでの時間設定 ※0=2msec、1=4msec、2=6msec、3=8msec
		0142 バドル極性の設定※0=Normal、1=Reverse
		0143 キーヤータイプの設定 ※0=Straight、1=BUG-KEY、2=ELEC-KEY
		0144 MIC U/Dをバドル代用の設定※0=OFF、1=ON
		0145 RTTYデコードのUSOS設定※0=OFF、1=ON
		0146 RTTY改行コードの設定 ※0=CR,LF,CR+LF、1=CR+LF
		0147 キー入力待ち状態で送出するコードの設定 ※0=OFF、1=BLANK、2=LTRS
		0148 RTTY送信時のUSOS設定※0=OFF、1=ON
		0149 キーボード[F-12]によるRTTY送信時に自動的に CR+LFコードを送出する設定※0=OFF、1=ON
		0150 RTTYタイムスタンプの設定※0=OFF、1=ON
		0151 RTTYタイムスタンプの表示設定 ※0=Local、1=CLOCK2
		0152 RTTYタイムスタンプの周波数表示設定 ※0=OFF、1=ON
		0153 RTTY受信文字のカラー設定(※P15-7参照)
		0154 RTTY送信文字のカラー設定(※P15-7参照)
		0155 RTTYタイムスタンプのカラー設定(※P15-7参照)
		0156 RTTY送信バッファ(未送信)文字のカラー設定 (※P15-7参照)
		0157 PSKタイムスタンプの設定※0=OFF、1=ON
		0158 PSKタイムスタンプの表示設定 ※0=Local、1=CLOCK2
		0159 PSKタイムスタンプの周波数表示設定 ※0=OFF、1=ON
		0160 PSK受信文字のカラー設定(※P15-7参照)
		0161 PSK送信文字のカラー設定(※P15-7参照)
		0162 PSKタイムスタンプのカラー設定(※P15-7参照)
		0163 PSK送信バッファ(未送信)文字のカラー設定 (※P15-7参照)
		0164 SCANスピードの設定※0=Low、1=High
		0165 SCANレジュームの設定※0=OFF、1=ON
		0166 アンテナメモリーの設定(0.03~1.60MHz) (※P15-8参照)
		0167 アンテナメモリーの設定(1.60~2.00MHz) (※P15-8参照)
		0168 アンテナメモリーの設定(2.00~6.00MHz) (※P15-8参照)

コマンド	サブ	動作
1A (注1)	05	0169 アンテナメモリーの設定(6.00~8.00MHz) (※P15-8参照)
		0170 アンテナメモリーの設定(8.00~11.00MHz) (※P15-8参照)
		0171 アンテナメモリーの設定(11.00~15.00MHz) (※P15-8参照)
		0172 アンテナメモリーの設定(15.00~20.00MHz) (※P15-8参照)
		0173 アンテナメモリーの設定(20.00~22.00MHz) (※P15-8参照)
		0174 アンテナメモリーの設定(22.00~26.00MHz) (※P15-8参照)
		0175 アンテナメモリーの設定(26.00~30.00MHz) (※P15-8参照)
		0176 アンテナメモリーの設定(30.00~45.00MHz) (※P15-8参照)
		0177 アンテナメモリーの設定(45.00~60.00MHz) (※P15-8参照)
		0178 アンテナの一時メモリー設定※0=OFF、1=ON
		0179 アンテナの選択タイプ設定 ※0=OFF、1=Manual、2=Auto
		0180 ANT2のアンテナタイプ設定※0=OFF、1=TX/RX
		0181 ANT3のアンテナタイプ設定※0=OFF、1=TX/RX
		0182 ANT4のアンテナタイプ設定 ※0=OFF、1=TX/RX、2=RX
		0183 VOXディレイタイムの設定※0=0.0sec.~20=2.0sec.
		0184 VOX音声遅延の設定 ※0=OFF、1=Short、2=Mid、3=Long
		0185 NB動作時のノイズ減衰レベル設定※0=1~9=10
		0186 NB動作時のノイズ幅設定※0=0~255=100
0187 スクリーンセーバーの設定 ※0=OFF、1=15min.、2=30min.、3=60min.		
0188 スクリーンセーバータイプの設定 ※0=Bound、1=Rotation、2=Twist		
1B	06	06 DATAモードの設定※(※P15-8参照)
		07 SSB送信帯域幅の設定※0=WIDE、1=MID、2=NAR
		08 DSPフィルタータイプの設定※0=sharp、1=soft
		09 ルーフィングフィルターの設定※0=6kHz、1=15kHz
		0A マニュアルノッチ幅の設定 ※0=WIDE、1=MID、2=NAR
		00 レピータ用トーン周波数の設定(※P15-8参照)
		(注1) 01 トーンスケルチ用トーン周波数の設定(※P15-8参照)
		1C 00 送受信の切り替え※0=受信、1=送信
		(注1) 01 アンテナチューナーの設定 ※0=OFF、1=ON、2=強制チューン

(注1) 書き込み以外に、読み込みも可能です。

(注2) カウンターを挿入するときは、他のチャンネルのカウンターをクリアしてから挿入してください。